

## 1. 調査の概要

- ・調査期間 令和4年1月14日～2月10日
- ・調査対象 18歳以上75歳未満の住民1,500名
- ・有効回答率 33.2%（前回：36.5%）

## 2. 主な調査結果

### 1. 満足度（現在の施策に対する市民の評価）（「紀の川市市民意識調査報告書」P.11～14）

- 満足度が最も高いのは、昨年度と変わらず「水道水の安定供給」でした。
- また、「地域医療体制・医療サービスの充実」について、昨年度と比較して順位が10位上昇しており、コロナ禍において医療サービスへの評価が高まっていると考えられます。
- 3分の1近くの人が「わからない」という回答だったのが「国際交流と国内交流」で、これも昨年度と同様にトップとなりました。

満足度順位	令和3年度	令和2年度
1	水道水の安定的な供給	水道水の安定的な供給
2	豊かな自然環境の保全	豊かな自然環境の保全
3	健康づくりと疾病予防	ごみや資源物の効率的な収集・処理
4	ごみや資源物の効率的な収集・処理	健康づくりと疾病予防
5	地域の特性を生かした農業振興	地域の特性を生かした農業振興

# 令和3年度市民意識調査報告書の概要について②

## 2. 重要度（これから市民が期待する施策）（P.15～16）

- トップは昨年度と同様に「地域医療体制・医療サービスの充実」で、コロナ禍において医療体制に対する意識が高まっています。
- 「災害に強いまちの形成」、「子育て環境・体制の整備、支援」、「高齢者へのサービス充実と健康づくりの推進」などの子育て・高齢者・防犯に関連する施策については、例年重要度が高い傾向があり、住民ニーズが高いことが分かります。
- また、「商工業の振興」について、昨年度と比較して順位が9位上昇しており、コロナ禍において冷え切った商工業の活性化が重要と考える市民が増えたと考えられます。

重要度順位	令和3年度	令和2年度
1	地域医療体制・医療サービスの充実	地域医療体制・医療サービスの充実
2	災害に強いまちの形成	高齢者へのサービス充実と健康づくりの推進
3	子育て環境・体制の整備、支援	災害に強いまちの形成
4	高齢者へのサービス充実と健康づくりの推進	子育て教育・体制の整備、支援
5	防犯・交通安全対策の推進	子供の力をのばす教育

# 令和3年度市民意識調査報告書の概要について③

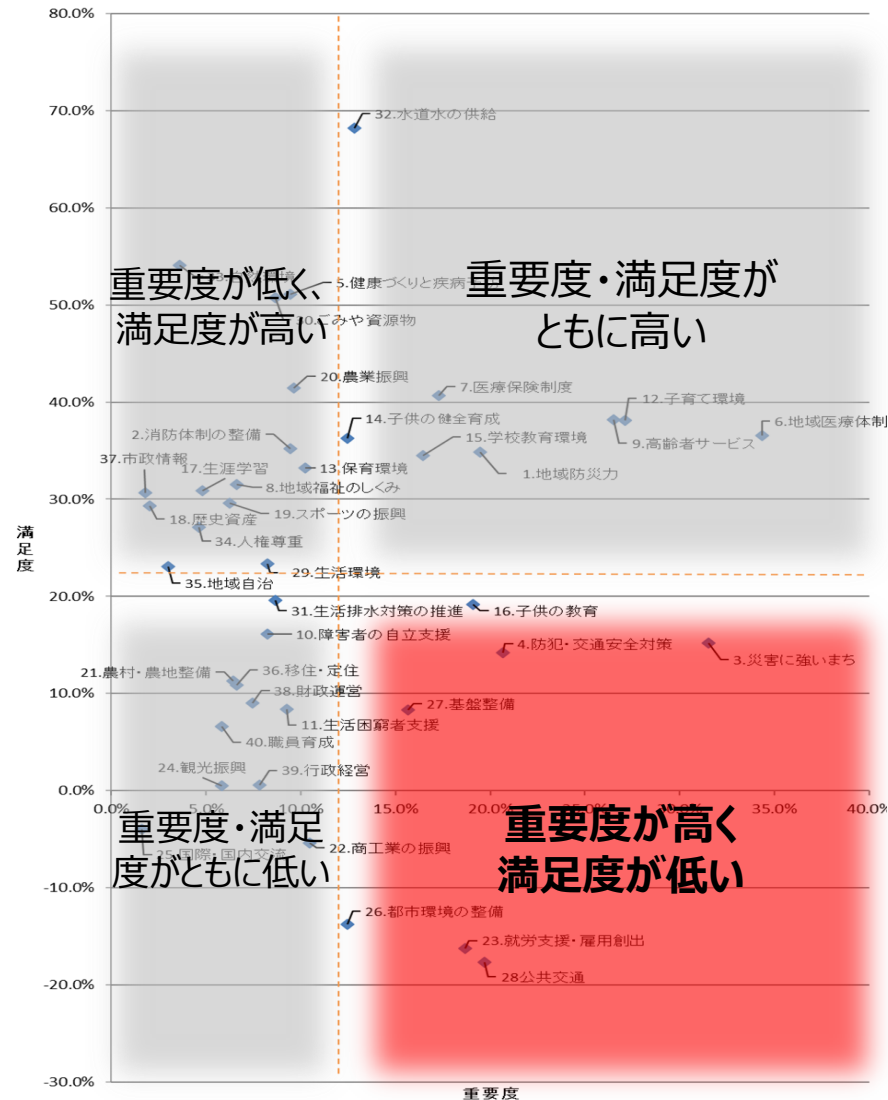
## 3. 満足度・重要度分析（重点的に検討すべき施策）（P.17～19）

○散布図（P.19）において右下（赤色部分）に位置する施策は、重要度が高いにもかかわらず満足度が低いことを表しており、特に紀の川市が重点的に検討すべき施策を表しています。

○今年度の結果から、「公共交通ネットワークの充実」、「就労支援の充実と雇用創出の振興」などが重点検討施策と言えます。

### 【重点検討施策】

令和3年度	令和2年度
公共交通ネットワークの充実	公共交通ネットワークの充実
就労支援の充実と雇用創出の振興	就労支援の充実と雇用創出の振興
土地の有効利用と住みよい都市環境の整備	災害に強いまちの形成
災害に強いまちの形成	子供の力をのばす教育
防犯・交通安全対策の推進	道路や橋梁などまちの基盤整備



# 令和3年度市民意識調査報告書の概要について③

## 4. 「安全・安心」に関する分野

- 昨年度と比較して家具を固定している人が8.7ポイント増加し、防災意識の定着が見られます。(P.22)
- 指定避難所・指定緊急避難場所について、どちらも把握している人が昨年度と比較して4.1ポイント増加し、特に10代のうち68.4%の方が把握しています。(P.25)

## 5. 「教育・子育て」に関する分野

- 歴史・文化財への興味を問う質問では、「興味がある」・「どちらかといえば、興味がある」と回答した方が昨年度と比較して6.1ポイント増加しています。(P.36)

## 6. 「産業・交流」に関する分野

- 食料品や日用品の買物先を問う質問では、市内のお店を「よく利用する」・「たまに利用する」と回答した方が、令和元年度と比較して急増しており、2年連続で域内消費の傾向が見られます。要因として、新型コロナウイルスの影響で遠出の外出を控え、市内で買い物や飲食をする方が増えたことが考えられます。(P.40)
- エシカル消費の認知度を問う質問では、言葉を知らない方が大半を占めており、特に10代・20代の認知度が低いため、若年層向けの啓発が必要です。一方で、「言葉は知らないが実践はしている」と回答した方が43.0%と最も多くなっており、知らず知らずのうちに倫理的な消費活動をしている方が多くいます。(P.43)

## 7. 「都市基盤・生活環境」に関する分野

- 市内の道路利用に関する質問で、安心して通行できるとした人の割合が、車、徒歩、自転車の順で下がっており、自転車では、「そう思う」「まあそう思う」人よりも「そう思わない」「あまりそう思わない」人の方が多くなっています。  
(P.47～49)

## 8. 「地域づくり・行政経営」に関する分野

- 市政の関心度を問う質問では、昨年度から比較して「関心がある」と回答した方が6.0ポイント増加しています。  
(P.52)
- 市政の情報源を問う質問では、今年度から運用を開始した「LINE配信サービス」と回答した人が35.7%で、「広報紀の川」に次いで2番目に多くなっており、情報発信の有効な手段の1つになっています。( P.53～54 )